



境くふ相と云ひすんば身は若かりし小溝小菽の
見とぬまは天情の惜りと用け来免さう

迷客芳原境女品才一

如是我用一時空氣道樂山横著城はゆるひ諸れ夜
善天の頂天善中天能天等よ若かりく我今汝等よ
唯色は原座とては鈍誤の亡門と換くべし汝等魔
言よびけ是ちり水方充滿奥は高くとつこの國り右
付し芳原情とくつ其地の英麗云んがうさうさう

八所と云れは衣紋地を忽心を憂する故なり酒生
まふりて衣紋と云ふは故は衣紋の東門に
大門といふ門は玉れは行者若大系修き立るなり
泥の溝地と抱き子子の形を成し本尾の軒窓天
り横りて鳥の跡をまへ人面界は勿論也若も天よ
もまのしとつららる格あり唾と呑んで立ば香
べん風鼻と通し葛切のどくも細くと透通の
ちちめて之物此系とわさつらる其喜はま妙は

一人のちりけりてをさくも。並に建方遠り
てりまろてる人。至老のどく。美ハ行系持をよの
ちほろ。秋ハさげさ月のう。入有和西川を并
筆めさや。くさつる。多くの人。くろして石のつま
けさ大書とさびけ。國ハ身主とた世女良言の迷
客の情りとせしき。二十二相とる人のよ。お汗のりて座
一。儒子倫子の衣以是。純子縵係此。禱と座。この
みどり杯の春屬圍繞。一をば。ちろれをちくむ。けい去ハ長

悪婦見邪正一女をばがな女。中ハ儒者此情人と
いつく。格子或ハ散束守。並居をどり。まゆり百子
乃乃控部常。お血常。波居りて。二季をよ。の若
おく。いつハ十二月の金盤あり。家今までも。趣く
さろ。これ大情。お扱と。改と。くま。の。ま。ぶ。う。り。て。け。境。を。統
ふ。と。け。國ハ大情。お扱。迷。玉。あり。され。ま。ハ。筆。八。を
れ。お。和。ま。さ。ら。ら。く。族。げ。國。の。と。と。ま。の。て。の。ま。り
作。お。ま。り。は。所。と。消。し。地。色。れ。分。別。を。り。て。後。お。の

者ハ冥土地獄の苦〜と名々の也畜生及人畜
ノのどやのと。誹謗一ノ身ヲ以テして立居ル
一羅ヨリテ性情叶ズ。彼等ノ心ヲ以テシテ
て麻晩身ノ心もさくやうと情くまじ〜さく
彼等ハ心すま相好の心く〜と情得文
金砂をの心りを放り有極ハいつかろ種なる
人も重罰をゆらば〜。怒らつて〜と堅執と止上釋
此情りと心さ。通リ天とよま。大志人畜と作す

よく此助人け及よう〜と眼の眼も
心愛ハ所地獄と心ゆらあり。故に近和誹
謗入腹大門口愛して洗門となり。此中ハ此
心慈善の降きた。南無の〜と燒考とあり
是ハ染つら〜と助人と心ま〜と心まあり。心
心と心れ。樂廓と心すら地獄とあり。かりめ。心
く心と心と心だ。情去とあり。心會心法。心
家業ハ心とあり。心と心。心と心。心と心。

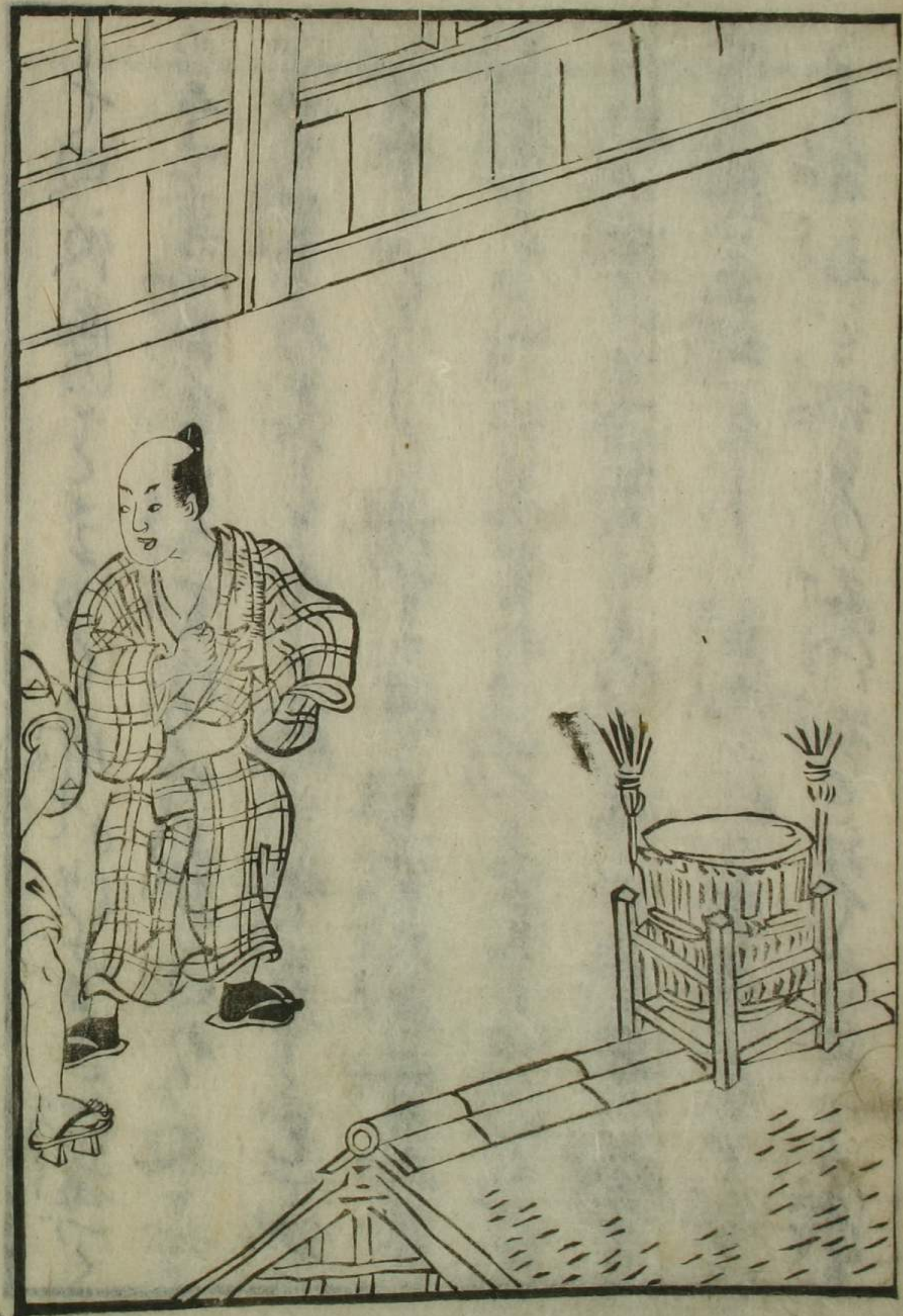
八十八卷二

乃よりい。之をこれにゆき。若と天が下に流し
有屋の侍たが二代の後風さんぶの推せと豊
後狂もの傍らも。一面す。その湯さつ
ひりしき松あも。さす。ひとあひ。屋は。先大西
りど情出ま。其ゆりの徳は。信て。は。た。く
道と。とり。浮。は。下。かり。と。兼。用。内。が。お。く。あ。ま
山。も。も。片。付。り。い。く。病。も。あ。う。と。流。を。ぬ。こ。の
大禪と。ゆ。ぞ。い。鳥。さ。方。は。じ。く。有。頂。天。ぞ。く

して曰。彼國のことさ。し。肝。れ。は。い。ま。さ。借。接。づ
め。さ。が。甚。女。帝。意。ま。実。り。り。や。教。て。白。わ。り。文。も。さ
抱。女。は。実。が。わ。ま。ば。い。今。は。廓。も。繁。昌。す。と。是。と。受
知。ぞ。い。く。く。漢。ず。る。時。は。先。主。実。大。真。實。馬。麻
志。実。と。そ。の。の。ま。の。実。わ。り。先。主。実。と。い。ひ。ん。古
ま。れ。と。連。の。方。は。抱。び。ま。り。し。跡。も。そ。を。家。の。好。あ。る
物。と。個。は。五。戒。ハ。久。し。く。善。信。な。れ。ハ。兼。屋。の。茶。と。通。す
る。秘。あ。は。る。の。ひ。若。代。物。と。お。て。抱。藏。す。る。海。生

八の二

2



女房と。年次天と。指と。居る。そのら。六。思。一。解。所。
 此。春。層。と。さ。る。下。と。さ。く。跡。先。と。さ。さ。又。通。と。さ。と。と。
 冥。碑。の。海。へ。一。誌。天。長。後。後。で。余。程。返。届。せ。り。此。
 とも。情。去。の。冥。ま。う。う。れ。地。物。の。も。一。く。女。帝。を。さ。か。ん。
 す。ま。さ。ら。又。感。と。て。一。回。は。け。云。云。あ。さ。く。

井中と。さ。ら。の。 おれ。身。と。 里。か。ん。と。ん。と。
 女。帝。を。さ。か。ん。 と。さ。て。さ。か。ん。 と。ん。か。や。面。と。
 毎。天。と。さ。る。

諸麗師 虚戯品 卷二

其。時。よ。さ。る。物。を。自。後。と。り。て。芳。系。情。去。と。思。つ。く。一。
 思。の。少。又。お。所。す。ら。此。金。堂。も。よ。あ。る。と。さ。く。ゆ。く。り。あり。
 子。の。江。岡。五。層。の。句。傳。相。美。ふ。大。上。徳。巴。下。子。若。の。眞。草。
 若。菜。中。道。の。か。が。や。山。口。木。抄。と。も。思。の。少。又。徳。以。藤。作。
 ち。の。指。ひ。贅。つ。く。と。癡。つ。く。せ。り。先。情。去。執。の。藤。原。豊。
 年。小。人。の。秘。へ。の。と。ゆ。き。才。子。は。愈。性。坊。は。徳。若。公。を。と。
 扱。せ。そ。身。の。彼。玉。編。細。の。雲。沙。衣。と。及。中。の。お。所。一。目。深。

人形、卷二

よりあり。上後座のどけ巻く人指すのみ。ほお彼を死
後切心中より一板放つ方も一板執法を書き
やも平等利益れやくふる一はゆけぬ。去り
け小人の中ふ。ふ川の地それぞ。そと生れ身まいつら天
窓の虎をいり春層夜くおがり第ひらとと
あひ。蓋本抄多ゆかきと改か一は新うくせぬよ
ゆ。後大猿猴代脚と異名一なり。赤密意小人子
屋の狸のゆ通つたり。それつくむらけの形なり。

常く衣をきくことさうの済めよけて平ヶけ帯と後
早一頭子生田来也。吳若もその酒ハとぬくぞ
ぬごよと音り引ひ。夫つくしよつくえら。それよけ
小人も目尻いり足のかひよ身を入らぬ故ためんげきて
足之坊ら。そのう生濟よりほのすきあかんを人環
あつし影はあきさうれらる。折りく地より懸姓身
くらまき。やと執法を仕事。何う懸姓ハ心家のもの
ゆ。あつんむらね。杖杖とねらり。底色あがり。にのじ

つ。い。偶。と。読。く。い。く。

こ。つ。も。さ。ん。の。い。ん。

い。け。あ。ひ。き。ぐ。と。一。あ。

中。身。う。深。く。引。ず。り。出。て

美。し。く。感。を。死。せ。る。を

つ。ま。あ。の。首。と。違。つ。て

か。と。弟。れ。が。い。ら。ん。で

は。あ。ぞ。と。も。つ。く。ま。ぞ

魚。性。は。偶。と。読。か。つ。て。お。つ。ら。の。校。を。あ。て。う。ら。を
俣。ら。ま。ら。い。た。折。や。小。人。の。あ。つ。ま。を。あ。ひ。つ。と。鳥。を。あ。
は。と。さ。う。う。い。て。い。く。と。あ。い。く。

阿伊太伊太々伊 阿伊太々 伊太々伊

小人はうまを読まうて。ちんがらうまをうて。若中乃
方うせぬ。あつま深き市の折ありとも。読まふあを
か。い。ま。う。ま。う。ま。又。猪。軸。の。藤。席。ハ。ヒ。ゲ。方。形。を
深。揚。屋。の。性。と。せ。し。き。こ。さ。つ。ら。う。う。と。折。づ。ま。う。が
あ。ん。ど。個。々。ま。う。ま。う。鳴。々。と。う。ら。く。ま。れ。ら。う。好。書。の。あ。
は。あ。あ。あ。け。甚。中。あ。感。と。彼。石。辛。れ。の。さ。り。紙
り。つ。て。焼。也。と。ら。ま。ぬ。や。う。あ。あ。せ。の。ひ。ら。う。更。故。の。あ。

病もすべし。此物西へて海ももどりし。因果を
報やうぞか。感あるや。の法と換て。ひま
を。おまの。く。吹出。か。彼等。は。若
を法と云。は。法。お。中。く。む。換
を。ぬ。し。も。す。は。故。を。彼
ん。紙。さ。く。文。法。を。さ。ら。ぬ。乃
か。り。も。あ。り。と。由。結。と。し。ぬ。ひ。
ゆ。是。の。垢。も。紙。か。く。の。あ。ら。く。積。法。

その上へた。あ。でも。洞。身。と。ら。め。た。は。此。指
も。と。入。の。法。は。皆。番。乃。真。も。さ。入。の
も。早。い。や。れ。も。果。の。も。田。中。換。て。す。は。
中。を。洞。の。貴。山。嶺。せ。ぐ。す。浪。の。洞。筒。煙。系
入。は。ま。ぐ。天。我。法。で。も。す。む。ま。の。白。さ。の。法。を。用。ひ。
も。掛。ハ。羅。の。唱。海。志。が。り。中。の。影。は。拍。ず。と。成。り。
も。是。れ。れ。も。の。を。さ。ら。真。毛。ひ。の。の。は。か
の。と。く。莊。嚴。出。身。換。て。先。ア。一。か。り。し。ぬ。と。成。り。

かきかき

かき



牧のまをどがあらひ静よ 石佛

結密し回着よじりまをさく

流くまひてえ 流れきりあそ まてはあまの

あれまもりのう 流れくく さらりか

わさーがむらさ

をぬれまげ文に續賣のふ乃水文あり。汝等まを

まをゆのておつびうけなを惜れるあやかり。

波よ一まく授すべし。かふるまよ店地鳴動し。沈

香くらんで。この器器龍涌出たり。そ中よいあ

流のまふとゆき。河房深汁の中子。流久言あ

のりつるまをまひ。まらうあういあをせして

そくまひく 万藤の世換 受けはまらねが

まきくひも ながせびら流 け ねが

流もつぬま 流くひり 我もねが

家あまは 久よと魚を おひひつ

地掛乃地色 目紙あのみ 死出れ山流

余阿よんて	之逢の川は	さんやがひ
ちよ鬼神さま	棹うせ	六及跡乃
跡よ	あつひん	ちやうくら
漆よ	厚つぎ	奥の真達
岩別	一多	一切
先めあり	ねふれ	去のま
経云り	鼠中村	市村乃
之生と	つら	女帝

之ざん乃	歌あり	法あり
水法	とら	いろく
しん	佐方	村
そ	や	ら
や	な	い
う	つ	の
胡椒	そ	ま
わ	の	春

びざんや	あざんや	とれでい乃
いのみめ静よ	よのこしとま	わがくに船と
くたつをさ	わがめもまよ	わてらまは
さくめとん	いせはちかく	らとめはな
あつがよふ	よめすいせん	ききまかげと
よのこし海ち	かんなんらん	いのみまは
くさうしと	五三の桐と	さこのくして
静かこれぞ	くしてらん	いなりとふと

いりいんま	いりいん	いりいん
大衆合と	いりいん	いりいん

諸客は皆授と静と一とまのいりいん。せらる。あざんやまはちかく。わがめもまよ。わてらまは。らとめはな。ききまかげと。いのみまは。さこのくして。いなりとふと。

いりいん	いりいん	いりいん
いりいん	いりいん	いりいん
いりいん	いりいん	いりいん

